

天覧山・多峯主山の 自然共生サイトへの認定

自然観察指導員 大石 章

令和4年12月カナダで開かれた国連生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)で、生物多様性の損失を食い止めるため、2030年までに地球上の陸域、海洋・沿岸域、内陸水域の30%以上を保護する「30by30」を新目標としました。現在の日本の陸域で国立公園等の保護地域は20%で、今後10%を保護地域としなければいけません。これはほぼ埼玉県と同じ面積を自然公園等に指定することになり、現実的には困難です。

そこで、国は国立公園等を拡充する以外に、保護区ではないが生物多様性が保全されている地域(OECM: Other Effective area-based Conservation Measures)を「自然共生サイト」として登録・保全することとしました。

具体的にOECMはどんな場所かという、ナショナルトラスト運動で買取保全されている場所、企業が保全している緑地などがその有力な候補地になっています。飯能市で一番大きな企業保全緑地は「飯能・西武の森」です。

30by30推進のために行政、企業、NPO等の連合体「30by30アライアンス」が結成され、てんたの会、そして西武ホールディングス(HG)始め同グループ企業も参加しました。

西武HGは環境省の「自然共生サイト(仮称)認定実証事業」に参加し、本年2月に飯能・西武の森が認定相当という評価を獲得しました。

自然共生サイトの認定は、生物多様性が効果的に保全され、今後も継続することを実証する必要



東谷津・ほとけじょうの里

があり、申請は容易ではありません。国は4年度の実証事業の結果を踏まえ、5年度から自然共生サイトの認定を開始しましたが、てんたの会は東谷津・ほとけじょうの里の認定申請を行いました。

認定のメリットはまだ明確に提示されていませんが、飯能・西武の森と一体的にほとけじょうの里が認定されることにより、永続的に保全される枠組みが構築されることが一番重要だと考えます。



30by30アライアンス・ロゴマーク

里山の現状と課題

天覧山タカ渡り観察グループ 市川 和男

都心から一時間ほどで自然に触れ合うことのできる奥武蔵の山々、一見すると緑も多く自然が豊かなように見えますが、年々この地域から動植物が姿を消しつつあり、生物の多様性が失われているのが現状です。

かつて奥武蔵には薪炭林と呼ばれるコナラやクヌギ、クリやシイなどの広葉樹とアカマツの林や、スギ・ヒノキなどの植林が中心で、主に燃料として薪や炭として利用され20~30年の周期で林は伐採されながら一定の遷移を保ち更新されてきました。落葉は農地に堆肥として利用され、また建材に利用されるスギ・ヒノキなど針葉樹で構成される植林地も、枝打ちや間伐など、人の手が継続して加わることで林床にも光が届き多様な草木が育ち、生物を育ててきました。高度経済成長の中、人々の生活が薪や炭の生活から石油や電気になり、外国からの安価な輸入材に頼る時代となると里山の薪炭林は更新されずに成長を続け、明るい雑木林から奥山のような樹高のある鬱蒼とした林へと変化し、スギ・ヒノキの植林地でも間伐や枝打ちなどの手入れがされずに暗くやせ細り、春先には花粉症の原因ともなっている多量の花粉を撒き散らすほか、土壌の保水力も低下して土砂崩れや河川への土砂流出の一因とも

なってきました。

動物も、年々高齢化による狩猟従事者の減少に伴いシカやイノシシの個体数が増加、生息していた山林の下草を食べるため奥山では下層の植生が失われ、シカやイノシシのほかカモシカやサル、アナグマ、ハクビシン、ツキノワグマまでも食べ物を求めて次々に里地へと下り、天覧山周辺でもイノシシの被害によってトウキョウサンショウウオやヤマアマガエルなどの個体数が減少し、ムカゴニンジンやアギナシなどの希少な植物も激減、畑や果樹などにも被害が及ぶこととなっています。



山を下りてきたニホンカモシカ



トウキョウサンショウウオの幼生

シカやイノシシの個体数を調整することも必要ですが、奥山においては戦後の拡大造林で増やしたスギ・ヒノキの人工林を広葉樹の森へと樹種転換していくことも必要で、里山に至っては動植物などの状況を踏まえた上で自治体などによる担保性のある保護区域と活用区域などゾーニングを行い、伐採などの更新作業を行いつつ生物の多様性



を確保していくことが求められます。



激減するアギナシ

エコツアーの利用など多くの人々が訪れることが予想される奥武蔵の山々ですが、間伐材から木質ペレットの利用やバイオマストイレの整備、循環型社会への人材育成など、従来のコンクリートだらけの「グレー・インフラ」から脱却し、オーバー・ツーリズムの問題や、防災・減災の観点からも地域の自然資源を活かした「グリーン・インフラ」の整備への社会的な投資が急がれます。

てんた活動情報

定期的な活動は以下のとおりです。中止や延期もあるので、参加する場合は御連絡ください。



〇てんたの定期的な会議・作業等

名称	日時	集合場所	備考
定例会・理事会	毎月 第2・4金曜 19:00~21:00	富士見地区行政センター	開催日変更あり
東谷津作業	毎月 第2・4日曜 10:00~14:00頃	東谷津	雨天中止
天覧山谷津作業	毎月後半の土or日 9:30~11:30(予備日有り) *6-9月は8:00~10:30	中央公園トイシ前(事務局:市環境緑水課)	雨天中止
モニ1000植物調査	毎月11日 8:30~昼頃	能仁寺山門前	雨天中止
モニ1000チョウ調査	4-11月 第1土曜 10:00~11:00頃	能仁寺山門前	晴天以外中止